

2019年2月22日

The Emerging Markets Weekly

拭えないメキシコ財政の不透明感

新興国市場:先週末、米中閣僚級通商協議の結果を控える中、アジア通貨の大半は軟調に推移した。IDR は1月貿易収支が予想を上回る赤字となったことに加え、原油価格の上昇が重しとなった。一方、RUB は原油価格の上昇を好感し堅調に推移した。BRL は年金改革案の格子が固まったとの報道を背景に値を伸ばした。週初18日、北京で行われていた米中閣僚級通商協議が15日に終了し、ワシントンで通商協議が再開されること、トランプ米大統領が3月1日に迎える対中通商合意期限を延長する可能性に言及したことを受け、アジア通貨は小幅に上昇した。ブラジルではベピアーノ大統領府事務総局長官が昨年の議会選で選挙資金を不正に利用していたとして、ボルソナロ大統領に更迭された。政治に対する懸念の高まりを受け BRL は前日比 0.9% 値を下げた。19日、米中通商協議が再開されるため、様子見ムードが広がったが、米国が中国に人民元の安定を要請しているとの報道を受け、大半の新興国通貨は堅調に推移した。RUB は納税と原油高が支援材料となり前日比+0.7% 上昇した。20日、トランプ大統領が前日に中国との通商協議はうまくいっているとした上で、3月1日の合意期限の延長について検討していることを示唆し、米中貿易協議への期待が高まったことから、アジア通貨は底堅く推移した。公表されたFOMC 議事要旨(1月29~30日開催分)では、2019年の利上げの可能性が完全に排除していないことが示唆され、予想よりハト派的でなかったとの見方から中南米通貨は軟調となった。21日は前日に公表されたFOMC 議事要旨を受けて、大半の新興国通貨は上値の重い展開となった。

アジア:18日に発表されたタイ10~12月期実質GDP成長率は前年比+3.7%と7~9月期(同+3.2%)から加速し、市場予想(同+3.6%)を上回る結果となった民間最終消費支出が引き続き堅調を維持し、総固定資本形成に加速したことが全体を押し上げた。一方、純輸出は引き続きマイナスとなり、外需の低迷は続いている。インドネシア中央銀行(BI)は21日に金融政策会合を開催し、政策金利を6.00%に据え置くことを決定した。BIは声明文で、現在の金利水準は、経常赤字をより健全な水準に引き下げ、国内資産の魅力を維持する取り組みと一致していると述べた。

中東欧・アフリカ:20日、南アフリカ財務省は2019年予算案を公表した。経営難に陥っている国営電力会社エスコムに対し690億ランド(49億ドル)の支援が行われることとなったが、これは事前に同社が要請していた1000億ランドよりも少ない金額となった。

ラテンアメリカ:ブラジルのボルソナロ大統領は20日、破綻状態にある年金制度の改革法案を議会に提出した。法案成立には上下両院で5分の3の賛成が必要であり、改革の実現に注目が集まる。

国際為替部
マーケット・エコノミスト
堀内 隆文
03-3242-7065
takafumi.horiuchi@mizuho-bk.co.jp

大島 由喜
03-3242-7065
yuki.ooshima@mizuho-bk.co.jp

お客さま各位

ここではレポートの一部をご紹介します。
しています。

レポート全ページをご希望の方は、
お取引いただいているみずほ銀行の
お取扱店、またはお取引担当部まで
お問い合わせください。

以上